

2015年11月15日 礼拝メッセージ

聖書：第一ヨハネ3章1～12節

説教：罪を犯すことができない

1 クリスチャンの現実

1) カインの罪

9節後半に、「その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです」とあります。〇〇することができない、と聞くと実に不自由な気持ちになりますが、罪を犯すことができない、と聞いて不自由だと言う方はいないでしょう。それはともかく、これはどういうことなのか気になるみことばです。

カインのことが12節に取り上げられていますので、そこから見ていきます。創世記4章に彼のことが詳しく記されています。アダムの子エバは最初にカインを産み、彼は土を耕す人になります。次に弟アベルが生まれ、彼は羊を飼う者となります。あるとき二人は主にささげ物をするにしました。カインは畑で収穫したものをささげます。アベルは飼っていた羊の中から最上のものをささげました。主は、アベルのささげ物に目を留め、非常に喜ぶのですが、カインが持って来たささげ物には目を留めません。これを知ったカインは怒り、弟のアベルを殺してしまいました。聖書に記されている最初の殺人事件です。第一ヨハネ3章12節では、「(カインは)自分の行いは悪く、兄弟(アベル)の行いは正しかった」という評価になっています。

私たちは、実際に人を殺している訳ではありませんから、「私はカインとは違う」と言いたくなるかもしれません。ところが、15節に「兄弟を憎むものはみな、人殺しです」とあります。心の中で誰かを憎んでいるならば、あなたはカインと同じ罪を犯しているの

だと言うのです。

2) 罪を犯している

こう聞かされるだけでも心が刺されるのですが、たたみかけるように6節にこうあります。「だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪を犯しません。」9節にはこうもあります。「だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。」

このところを読んでどう思われたでしょうか。もし、カインと同じことを自分もしているというのならどうなるか。6節や9節のみことばをあてはめれば、キリストのうちにとどまっていないことになるし、神から生まれたものではないので、神の種もとどまっていないことになる。罪を犯しているのですから、悪魔から出た者ということになります。

いったいどうしたらよいのでしょうか。罪を止められない者は悪魔の子どもであると言われるのでしょうか。もしそうであるなら、少なくとも私は教会に来ることができません。

2 出発点

1) もし、罪はないと言うなら(1章8節)

もう一度、この手紙がどんな議論から出発していたのかを押さえておきましょう。1章8節にこうあります。「もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は

私たちのうちにありません。」

救われてもなお罪は私たちのうちにある、罪を犯し続ける者である、というのがこの手紙の出発点です。これは私たちの現実そのものですので、まず安心します。では3章に戻って、このところはどう考えたらよいのでしょうか。ヨハネは一方で、「私たちのうちには罪がある」、「私たちは罪を犯しているのだ」と言い、もう一方で、「キリストのうちにとどまる者は、罪を犯しません」と言う。これは矛盾しているようにしか思えません。もちろん聖書が矛盾したことを書くはずはないので、なにかを見落としているので矛盾したように見えるだけのはずです。

2) もし、自分の罪を言い表すなら(1章9節)

このことを解決する鍵となる言葉は、1章9節にあると思います。「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

私たちは神の恵みによって救われました。救われたから、その日からもう罪を犯さなくなる、というわけではありません。むしろ、救われる以前よりももっと罪に敏感になり、見えなかった罪が見えるようになるので、なかには救われる前よりもひどい罪を犯しているのではないかと苦しむ方も出て来ます。それがクリスチャンの現実です。ときどき一般の人たちからも言われたりします。「あなたはクリスチャンなのに、愛のない人ですね」と逆に叱られてびっくりしたり、悲しくなることがあります。

開き直りかもしれませんが、罪を犯し続けるし、愛もない、それが隠しようのないクリ

スチャンのほんとうの姿です。けれどもいつまでもそこで開き直っている訳ではありません。私たちが他の人たちと違うところが一つだけあります。それが1章9節のみことばです。「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

自分が罪を犯したという自覚を持つのは、なにもクリスチャンだけではありません。聖書の神に出会う前のことを思い出してください。ほかの人のものをこっそりと盗んだ。弱っている人に対して冷たい言葉を投げつけた。嘘をついた。いろいろな場面で、私たちは後ろめたいことをくり返してきました。そのとき、私たちはどうしたのでしょうか。「しかたがなかった」「ほんのできごころだった」

「だれでもやったいることではないか」そんな言い訳をして、自分の中で誤魔化してきたのではないですか。私はあなたのものを盗みました。私はあなたに対してひどい言葉を言ってしまいました。私は嘘をついていました。もしそんなことを言えば、人は自分を軽蔑するだろう。「何とひどい人だ、もう信用できない」と言われて白い目で見られる。だからこのまま隠しておこう。だれにも言わないでおこう。多くの人はそのようにして生きています。

でも私たちは違います。自分の罪を神に申し上げることができます。初めて教会に来られた方にこのように言いますと、中にはびっくりする方がいます。「神さまは私のことを怒って罰を与えるのではないか。こわくてとても言えない。」

そのとおりです。神は正しいことを正しいとし、悪いことを悪いとされる方です。悪いこ

とをしたなら、必ず罰する方です。悪いこと
をした者に対して必ずさばきをくださる方
です。ですから自分の罪を神に申し上げるの
はこわいという気持ちはよくわかります。

しかし私たちはこわがる必要がないと言
われているのです。どうしてか。二つの理由
を挙げることができます。

まず一つ目、「神は真実で正しい方ですか
ら」とあります。真実で正しい方ですから、
罪を見逃さず、必ず罰を与えます。いったい
だれがさばかれるのでしょうか。だれが罰を受
けるのでしょうか。受けるべきなのは私たち
でした。しかし、罰を受けてくださったのは
神のひとり子であるイエス・キリストでした。
そのさばきはすでに十字架で行われました。
神がなさるさばきは完全なのでただの一度
きりで終わりです。二度も三度もあるのでは
ない。さばきは行われてしまったのです。で
すから、いまここで罪を告白したら新たに罰
を受けるのではと、こわがる必要がない。主
がすでにさばきを受けてくださったのです
から、安心して告白してよい。それが一つ目
の理由。

二つ目の理由。真実で正しい方が、十字架
で罪のさばきをなさったというのなら、それ
は完全なものであるはずではないですか。主
は十字架の上で叫ばれました。「完了した。」
すべての罪のさばきが完全に成し遂げられ
たと言ってくださったのです。すべての罪、
それは私たちがこれから犯すどんな罪も含
まれている。それが「完了した」という言葉
の意味です。だからなにもこわがる必要がな
い。

もし罪を告白するなら、神は直ちにあなた
の罪を赦し、すべての悪から私たちにきよめ
てくださいます。それが聖書の約束です。

3) 罪を犯すことができない

では3章9節はどうなるのでしょうか。「だ
れでも神から生まれた者は、罪を犯しません。
なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっ
ているからです。その人は神から生まれたの
で、罪を犯すことができないのです。」

もう二度と罪を犯さないと言っているの
ではありません。罪を犯したとしても、私た
ちがもし罪を主に告白するなら、神はそのと
き、「あなたはもうきよい」と言ってくださ
います。きよくされたのですから、神の目に
は罪はもう見えません。たとえ私たちの心が
罪を思い出してうずいたとしても、神はその
ように取り扱ってくださいます。

どんなに罪を繰り返したとしても、罪を言
い表している限り罪はきよめられます。罪は
犯していないということになる。そうします
とどうなりますか。結果的に、私たちは罪を
犯すことができない、という結論に至る訳で
す。

3 カインのその後

このことはカインにもあてはまるのかど
うか、そのことを最後に確認します。カイン
は弟を殺したあと、神から問いかけられるの
ですが、罪から逃れるために知らない振りを
します。しかし神は、あなたがアベルを殺し
たのだとその罪を指摘したとき、カインはこ
う言うのです。「私の咎は、大きすぎて、に
ないきれません。」「私に会おう者はだれでも、
私を殺すでしょう。」カインは罪の告白に導
かれました。同時に、さばきによって自分は
殺されることになるだろうと考え、絶望して
しまいます。

神はどうされたか。「それだから、だれで

もカインを殺す者は、七倍の復讐を受ける。」
絶対にカインは殺されてはならないと宣言
されました。罪の告白をした者は必ず救われ
るのだということです。罪を告白したカインは
赦されました。このようにして彼は悪からき
よめられました。

主は救いの約束を確実なものとするため
に、カインに一つのしるしを与えて、生涯カ
インを守り続けます。それはどんなものであ
るかはわかりません。けれどもカインに与え
られたのと同じしるしが、私たちにも与えら
れています。そのしるしはカインを守ったよ
うに私たちを守ります。どのようにして守る
のか。私たちが罪を犯すことができない。そ
のような守りとして与えられています。